

復興まちづくり計画策定へ向けた

第2回地区別懇談会

日時・会場：

令和3年7月7日(水)	19:00	田上地区	田上社会教育センター
令和3年7月14日(水)	19:00	百済来地区	久多良木地区多目的集会施設
令和3年7月18日(日)	9:30	中津道地区	坂本中学校体育館
令和3年7月18日(日)	13:00	藤本地区	坂本中学校体育館
令和3年7月18日(日)	16:00	鮎俣地区	鮎俣社会教育センター
令和3年7月24日(土)	10:00	深水地区	深水生活改善センター
令和3年7月24日(土)	13:30	西部地区	西部地区多目的集会施設
令和3年7月25日(日)	13:30	中谷地区	さかもと青少年センター

○概要

事務局より下記説明を行い、まちづくりに必要な具体的な取り組みを策定すべく、課題や魅力等を地区ごとに話し合うグループワークを行った。

(1) 事務局より説明

復興へ向けたこれまでの取り組み

復興まちづくり計画策定へ向けて

(2) グループワーク

令和2年豪雨災害を受けての住まい再建

緊急時における避難場所、避難経路等

集落再生へ向けた取り組み

○質疑応答・グループワーク

《百済来地区 参加者：25名》

【意見・質問等】

なし

【グループワーク】

令和2年豪雨災害を受けての住まい再建

- ・主要道路の拡幅をお願いしたい。
- ・護岸の復旧を進めてほしい。
- ・板持川に堆積した土砂の撤去、流木の撤去を早急に進めてほしい。
- ・市道の整備を進めてほしい。
- ・河川の補修工事を早急に進めてほしい。
- ・護岸工事を早急に進めてほしい。また、雨が降れば水浸しになるため、かさ上げも行ってほしい。
- ・林道建設時の廃土や排水路が狭いことで水の逃げ場がなく、林道等が崩れる要因となっている。
- ・排水路が流木等で詰まるため対策してほしい。
- ・旧県道の橋を撤去してほしい。

緊急時における避難場所、避難経路等

- ・避難経路となる道路が通れる状態ではない。
- ・当日に避難することは難しいため、前日に判断してほしい。
- ・板持の公民館は川の上にあるため、水が出た際は危険である。それぞれが高台にある知り合いの家へ避難できるよう話をしていきたい。
- ・ここも避難場所となっているが、イエローゾーンとなっているため対策しないとけない。
- ・社会教育センターの運動場をヘリポートとして利用できるようにしてほしい。また、体育館を整備し、災害時に避難できる大きな施設が必要だと思う。
- ・避難場所関係で、昨年豪雨で道が寸断したが道が寸断すると避難ができなくなる。
- ・県道で通れないところがあり避難場所にたどり着けないため、部落内の公民館を避難場所にしてはどうか。お年寄りにとっては、ここへの避難も難しいことがある。
- ・近所の安全な場所に避難できるよう日頃の話し合いをしておく必要がある。
- ・部落内が川で3分割されているため、避難場所の設定が難しい。

・道幅が狭い箇所があり、危険なため拡幅してほしい。ツーリング等で訪れる方にとっても危険である。

集落再生へ向けた取り組み

- ・神社及び祭りの復活をお願いしたい。
- ・地区を盛り上げるためには、祭りの復活が必要だと思う。
- ・百済木水源の周辺やさくらの雫の整備を進め、百済来が目玉にする必要がある。
- ・百済来地区は奥に位置するため、道の整備が必要である。道路の拡幅もあるが、八代南インターから鶴喰の方向へトンネルを掘ってほしい。
- ・市内の方に向けた一口農業のような小さな農業をアピールする必要がある。
- ・農村であるため農地の整備も進めてほしい。現在は土砂の撤去等、手が付けられていない。今年は稲作が全然できていない。
- ・農村及び林業地帯であるため農道と林道の整備をしていただきたい。森林の整備等ができない状態にある。

《中津道地区 参加者：45名》

【意見・質問等】

なし

【グループワーク】

令和2年豪雨災害を受けての住まい再建

- ・公営住宅に住み続けたい。
- ・宅地において、かさ上げがどの程度の高さが必要なのか、いつかさ上げ工事を実施するのか不明のため、住まいの再建を検討することは難しい。
- ・かさ上げ工事を実施するのであれば、実施時期を教えてください。
- ・山の流木撤去をしてほしい。
- ・自宅に戻りたいが、かさ上げ工事实施の目途が立っていないため戻ることができない。
- ・公営住宅の建設場所として、高台で安全な場所は旧中津道小学校区しかないのではないかと。
- ・国道219号、県道中津道線整備を早急に行ってほしい。
- ・かさ上げ工事を早期に実施してほしい。そして安全な土地を提示してほしい。
- ・かさ上げ工事がいつ開始・終了するか不明のため、自宅に戻ることは困難である。
- ・子供達が通学できるように交通網の整備をしてほしい。
- ・仮設住宅の供与期間延長されるという話を聞いたが、実際に期間延長されるのか教えてください。

- ・自宅に戻る予定のない、みなし住宅居住者には補償がつくのか教えてほしい。
- ・不明確な情報ばかりで不安に感じている。
- ・現在運行しているスクールバスの期限 2 年となっているが、以降の方向性について教えてほしい。
- ・かさ上げに関する情報を早期開示してほしい。自宅付近がかさ上げ工事の対象になるかどうかで、住まいの再建計画もよって変わる。第 3 回の復興まちづくり懇談会で、かさ上げに関する情報を教えてもらいたい
- ・球磨川にそそいでいる支流でも増水し、浸水があった。支流の掘削を早期にお願いしたい。
- ・支流の上流で砂防ダムを整備中であったが、災害によって地形が変化し再整備が必要と考えられる。こういった状況にならないよう整備計画を見直してもらいたい。
- ・本流の土砂撤去が全く進んでいないように感じるため、早期の土砂撤去を行ってもらいたい。

緊急時における避難場所、避難経路等

- ・避難経路は国道 219 号になるため、再設計をする必要がある。
- ・つい最近も斜面が崩落し片側通行となって道路があるため、土砂の撤去が急務である。
- ・避難所では鍵等が開かず、使えない部屋があった。
- ・各地区で一番安全な避難場所を決めておく必要がある。
- ・避難場所として社会教育センターや坂本中学校になっているが、自宅から遠方のため災害時の移動が危険である。
- ・社会教育センター等避難所の耐震工事を徹底してほしい。
- ・社会教育センターの耐震工事を行ってほしい。
- ・社会教育センターを安全な施設に改修してほしい。
- ・災害時、避難指示がうまく伝達されなかった。災害時の情報共有は重要なため、放送設備の整備を行ってほしい。
- ・社会教育センターを避難所として指定していただき、耐震工事や備蓄物資の確保を行ってほしい。
- ・災害発生時、周囲の状況連絡がなく、住民の有志が各所へ連絡をとって情報共有を行った。無線機等で意思疎通が図れるように、情報共有の手段を整備してほしい。

集落再生へ向けた取り組み

- ・畑が復旧しない限り、中津道地区に戻ることはできない。
- ・文化施設としてお堂や山の神様も土砂で埋まってしまった。
- ・お祭りを継承していく必要がある。
- ・金融機関等なくなり不便になった。
- ・ライフラインの早期復旧が必要だと思う。

- ・消防団も埋没している。
- ・給水設備の整備もまだのため、早期復旧が必要だと思う。
- ・各地区で危険箇所等それぞれの意見を出し合い、対応する必要がある。
- ・現在もお堂の持ち回り清掃実施している。
- ・各地区のかさ上げを早急に行い、避難している方々が戻ってこられるような環境を整備してほしい。
- ・高齢化が進んでいるため、高齢者が安全に移動できる交通網の整備を進めてほしい。
- ・バス等のダイヤに関して、ゆとりのある運行を行ってほしい。
- ・住民が集まる場所として、公民館を新設してほしい。（社会教育センターは耐震に問題があるため、集まることは困難である。）
- ・以前は阿蘇神社で子供を遊ばせていた。現在、清掃等を手伝えない状態は心苦しい。
- ・公営住宅が建設されるが、引っ越すにも経済的に難しい。
- ・現在バスは坂本町までしか走行していないので、坂本町より南側にも運行してほしい。その際には柔軟なダイヤ設定・運用をお願いしたい。
- ・食料品の移動販売を検討してほしい。
- ・災害時にも利用可能な水道設備を整備してほしい。
- ・災害によって管理できなくなった畑への害獣対策の徹底をしてほしい。
- ・八代市から JR に、復旧促進を進言してほしい。

《藤本地区 参加者：68名》

【八代河川国道事務所：かさ上げに関する説明】

- ・現状、家屋の高さの測量結果を精査中。精査と並行して、中流域のかさ上げ事業に関しては八代市、芦北町、球磨村、熊本県と協同して、復興まちづくりの事業内で調整を実施している段階である。
- ・8月下旬～9月にかさ上げに関する説明を行う予定である。

【意見・質問等】

- ・3月に行われた地区別懇談会で指摘された事項について回答がない。まだ回答できないのであればその旨を示してほしい。
- ・公営住宅の建設や医療関係者に対し感謝を申し上げる。

【グループワーク】

令和2年豪雨災害を受けての住まい再建

- ・かさ上げ工事の実施によっては自宅に戻ることも検討したい。
- ・仮設住宅の整備をしてほしい。

- ・解体作業が進んでいるか心配である。
- ・高齢者が多いので、早期復旧を行ってほしい。
- ・しっかりとした地盤に整備をしてほしい
- ・自宅に戻るにあたり、かさ上げの範囲やスケジュール等の情報を開示してほしい。
- ・高台を整備してほしい。
- ・かさ上げ工事が決まらないと、住まいの再生はできない。
- ・かさ上げ工事の計画を早期に提示してほしい。
- ・緊急放流をするのであれば、試算結果を公表してほしい。
- ・今後の方針を具体的に提示してもらわないと何も進まない。
- ・災害時、放流量はどのくらいだったのか開示してほしい。
- ・油谷川の堤防かさ上げ実施の有無を開示してほしい。
- ・かさ上げ等の情報が開示されなければ、住まい再建の方向性が決められない。
- ・子育て世代が戻ってこられるような土地整備をお願いしたい。
- ・街灯の増設と、集会場修繕をお願いしたい。
- ・復興住宅の建設場所を早期に確定してほしい。
- ・復興住宅に関しては、1LDKではなく2LDKの住宅を建設する必要がある。
- ・医療施設を建設してほしい。
- ・高齢者など買い物弱者が多く、移動にはタクシーを利用している。
- ・タクシーの移動は負担が大きいため、地区内に医療介護福祉体制の構築してほしい。
- ・災害公営住宅の建設場所の確定してほしい。また災害公営住宅に至っては、アパートや長屋住宅等の集合住宅ではなく、戸建てを建設してほしい。
- ・子供が八代市内からスクールバスで通学しており、引き続き利用したいが、これからも継続運行するのか教えてほしい。
- ・かさ上げの情報を開示してほしい。
- ・復興住宅建設の情報を開示してほしい。

緊急時における避難場所、避難経路等

- ・避難場所として公民館の早期再建を行ってほしい。
- ・地区内には空き家があるので、空き家（安全確認を行ったうえで）を避難施設としてはどうか。
- ・地区内ではラジオ等の電波が入らない場所が多いため、国・県・市で働きかけて防災ラジオを聞くことができるように整備してほしい。
- ・災害発生時、道路が寸断されていたため避難場所である中学校へは行けず、旧藤本小学校に避難した。旧藤本小学校を避難場所にしてほしい。
- ・高齢者には、避難場所である八竜小学校まで行くことは困難のため、中学校の体育館を避難場所にしてはどうか。

- ・災害発生時、避難場所である坂本中学校まで来るのは困難なので、上荒瀬は自宅に避難、下荒瀬は社会福祉センターに避難するなどの避難計画を立てる必要がある。荒瀬は各班で代表者を選出し、連絡先を共有、何かあった時には連絡を取り合えるように計画をしている。
- ・災害時、避難路が全て土砂等で寸断されていた。
- ・坂本支所までの避難経路を確保してほしい。
- ・坂本支所から八代市までのアクセスがほしい。
- ・2019年度版防災マップについて、今回の災害を踏まえて改定版はいつ開示されるのか。レッドゾーン・イエローゾーンが再設定されるはずなので、その情報次第で再建が決まると思う。
- ・県道八代中津道線の通行できるようにしてほしい。
- ・八代市へ通行しやすいよう道路の拡幅をお願いしたい。
- ・道の駅や坂本支所は埋立地に立地しているので撤去すべきだと思う。
- ・道路の拡幅をしてほしい。
- ・住民には高齢者が多く、スマホの使用は困難のため、防災ラジオの整備をしてほしい。
- ・災害時のタイムラインを作成してほしい。
- ・防災意識を醸成するため防災講習等を開いてほしい。
- ・避難場所建設の定義を開示してほしい。
- ・第一避難場所は各地区近くの公民館に設定すべきではないか。
- ・道路の道幅が狭いため、消防車や救急車も走行できるよう拡幅工事をしてほしい。
- ・防災教育を推進してほしい。
- ・他地区の防災に関する動向を共有できるようにしてほしい。
- ・有害動物の被害対策徹底してほしい。
- ・藤本社会教育センターに避難したが、将来的には各地に避難場所を設置するとよい。
- ・緊急事態に備えてヘリポート場所を確保する必要がある
- ・自主避難を徹底する必要がある。

集落再生へ向けた取り組み

- ・坂本支所建設予定地の地盤はとても弱いので、建設には反対である。坂本駅周辺は地盤が強いので、坂本駅に医療機関や郵便局等の機能を備えた駅ビルを建設してほしい。
- ・地区ではオープンカフェを開いているので、たくさんの人に参加してもらい現在の気持ちを共有したい。
- ・地区に昔からある川祭り等の行事を復興していきたい。
- ・JRやバスの増便を行ってほしい。
- ・住まいの再建が決まらなると集落再生もできないと思う。
- ・合志野に早く戻りたい気持ちはあるため、現在空いている高台に宅地開発をしてほしい。

- ・ 早期に復興内容（かさ上げ）等を示してほしい。
- ・ 道路等を含めてライフラインをよくしてほしい。
- ・ 坂本町は人口規模等を加味すると、集落再編の必要がある。
- ・ 現在の地区を統合し、安全な共同の公民館設置を検討する必要がある。
- ・ 子育て世代が集まれる施設の建設してほしい。
- ・ 各地域に避難場所を建設してほしい。
- ・ 病院を再開してほしい。
- ・ 交通利便性の向上を促してほしい。
- ・ かさ上げによって、集落再生への対応も変わってくると思う。
- ・ 支所付近に公共施設を建設してほしい。

《鮎俣地区 参加者：21名》

【八代河川国道事務所：かさ上げに関する説明】

- ・ 現状、家屋の高さの測量結果を精査中。精査と並行して、中流域のかさ上げ事業に関しては八代市、芦北町、球磨村、熊本県と協同して、復興まちづくりの事業内で調整を実施している段階である。
- ・ 8月下旬～9月にかさ上げに関する説明を行う予定である。

【意見・質問等】

なし

【グループワーク】

令和2年豪雨災害を受けての住まい再建

- ・ 災害後、道路が陥没し未整備のままであり、通行する際に迂回しなければいけない不便さがあるため、早期に整備してほしい。
- ・ 避難施設に関して、トイレ等整備してほしい。
- ・ 災害時に損傷した生活道路を整備してほしい。
- ・ 河川中にある大岩の撤去し整備をしてほしい。
- ・ 各主流に砂防ダムがあるが、流木・土砂が堆積しているので、再度流量が増える前に、早急に撤去してもらいたい。
- ・ 大平ダムが災害発生時に有用だったのであれば、具体的に提示してほしい。
- ・ 陥没している道路の復旧がなかなか進まないことに対し疑問を感じている。
- ・ 床下浸水が発生した住宅の状況確認をしてもらいたい。
- ・ 登俣地区の治水対策を徹底してほしい。
- ・ 河川中にある大岩の撤去を行ってほしい。

- ・道路陥没箇所の整備を行ってほしい。
- ・登俣川の治水対策を行ってほしい。

緊急時における避難場所、避難経路等

- ・迂回路を整備してほしい。
- ・鮎俣小学校跡地が避難施設になると思うが、トイレは仮設であり、冬場の暖をとる手段もないため、避難施設として整備してほしい。
- ・八竜小学校が避難施設として指定されているが、距離が鮎俣から 10km と遠方であり避難するには困難である。ゆえに各部落で第 1 次避難場所、鮎俣地区全体で第 2 次避難場所、広域で第 3 次避難場所（八竜小学校や八代市など）を設け、段階的に避難場所を設置するとよいのではないか。
- ・災害発生時、高速道路を通じて八代市に避難した。
- ・旧鮎俣小学校は避難場所にするにあたり、耐震点検等が必要である。
- ・避難経路として、林道利用を提案されているが、現在通れない状態になっているので再整備をお願いしたい。

集落再生へ向けた取り組み

- ・棚田の保全を通じて、地域を元気づけてもらいたい。
- ・坂本橋下流地域では 1 年に 1 ～ 2 回冠水しているため、道路のかさ上げや立体交差化を行ってほしい。
- ・社会教育センターのグラウンドにヘリポートを整備してほしい。

《深水地区 参加者：22 名》

【意見・質問等】

・私からは、本当に伝えたい一言だけ話させていただきます。坂本町に早く本当の笑顔が戻ってくるように県・市・支所の方々に努力いただき、坂本町が未曾有の災害以前の姿に戻るよう早期の復興をお願いします。挨拶としては短いですが、本日は多くの方々にご出席いただきありがとうございました。

【グループワーク】

令和 2 年豪雨災害を受けての住まい再建

- ・道路と迂回路の完全な整備をお願いしたい。
- ・深水橋の早期完成をお願いしたい。
- ・道路の拡幅をお願いしたい。
- ・深水橋の早期整備をお願いしたい。
- ・周辺の谷川や山林の点検をお願いしたい。

- ・深水橋の早期整備をお願いしたい。

緊急時における避難場所、避難経路等

- ・深水生活改善センターを避難場所にしてほしい。
- ・孤立した際、ヘリコプター着陸地点の確保をお願いしたい。
- ・防災無線の早期整備をお願いしたい。
- ・深水生活改善センターが第二避難場所となっているが、集落が点在しており遠い所もあるため、ここまで来ることができない現状にある。
- ・避難訓練の問題がある。
- ・林道の整備をお願いしたい。
- ・各集落で話し合い、個人宅等になると思うが集落の安全な場所を決め避難することも考えてはどうか。
- ・深水生活改善センターまでは遠く時間がかかるため、公民館の使用を検討してはどうか。

集落再生へ向けた取り組み

- ・走水の滝を利用し、観光地として再建したい。
- ・空き地を利用し、人口増加に繋げていきたい。
- ・集落再建には、道路の拡幅や深水橋の早期着工が重要になる。
- ・深水橋、川口橋の早期整備をお願いしたい。
- ・県道等、周辺道路のかさ上げをお願いしたい。
- ・避難時に高齢者を気遣い、地域みんなで寄り添い合い避難できるように、声掛けが重要になる。

《西部地区 参加者：48名》

【意見・質問等】

なし

【グループワーク】

令和2年豪雨災害を受けての住まい再建

- ・どの程度のかさ上げが行われるのかが分からないため、ここに再建するかどうか判断できない状況である。
- ・かさ上げがどの程度なされるのかが見えない。国道沿いや球磨川沿いで被害が発生しているため、かさ上げの内容を詳しく示してもらえると住民も安心できると思う。
- ・今泉地区には住める土地がある。八代市街地からも近い。外部の人を呼び込んで、人口を増やし活性化に繋げていきたい。

- ・災害に関する支援制度の情報をネットで確認するよう言われているが、高齢者にとってネットでの情報収集は難しく、実際は支え合いセンターの職員が訪問した際に情報を収集していることがほとんどだと思う。支え合いセンターの職員の負担も大きくなっているため、本当に支援が必要な人に対象を絞って支援の力を注いであげてほしい。
- ・山の中腹の砂防ダムの整備をお願いしたい。堆積している土砂が長年放置されており早期に除去してほしい。県に問い合わせをしてもなかなか対応してもらえない。
- ・幸いにも横石の再建は終わっている。今後も引き続き安心して生活できるように、山水を球磨川に排水するような整備を行って欲しい。
- ・排水ポンプの設置をお願いしたい。
- ・かさ上げをお願いしたい。

緊急時における避難場所、避難経路等

- ・公民館に避難できる地域もあったが、一方、道路が水に浸かってしまい避難できない地域もあった。災害時の避難路の確保が重要だと思う。
- ・避難後については、避難所のトイレが使用できなくなったり、水が確保できなくなったりした。水や布団など避難生活に必要なものを備蓄しておくことが重要である。
- ・この西部地区多目的集会施設も水に浸かってしまい、指定避難所から外れてしまっている。現在、今泉公民館が代替の避難所になっているが、仮に40～50名が避難してくると収容できなくなってしまう。こうした暫定的な措置はいつまで続くのか。
- ・新幹線の見える広場を通る林道を代替の避難路として整備してもらえれば、国道が水に浸かっても避難することができる。昔も同じ話が出ていたそうだが途中で話が立ち消えになったと聞いている。再度検討していただきたい。
- ・今泉地区会という支援組織を結成している。今年、消防団14名で消防訓練などを行う予定である。
- ・先ほど同じ意見があったが、多目的集会施設が水に浸かってしまい、指定避難所から外れてしまった。現在は、今泉公民館が代替の避難所になっているが、あまりにも狭い。今泉に新たな避難所を確保するか、100年に1度の大規模災害を除く災害については、多目的集会施設を避難所として活用するなど、ケースバイケースでの検討をお願いしたい。
- ・避難所を地域に1ヶ所と絞っているのは、災害時に職員を貼り付けられないからだと思う。住民自治会や地域振興会などと連携し、避難所の管理・運営を任せることで職員の負担軽減を図ることができると思う。
- ・私たちの地域では中学校体育館に避難するよう指示があるが、遠く離れた避難所に向かう間に被災してしまえば意味が無い。私たちの地域には公民館があるので、そこに避難すればよいと思う。避難所の配置を検討してほしい。
- ・深水橋の早期着工・再建をお願いしたい。
- ・上地区では4～5軒の被害があった。特に保育園の被害が大きく未だ営業を再開できてい

ない。地質調査などを行っているようだが、調査が終わったのか、まだ続いているのか何も報告がないような状態である。調査に来たら地元責任者に報告するなどしてほしい。

- ・現在、今泉方面に避難所が配置されているが、台風や地震などの災害については、この多目的集会施設を避難所として活用できるとよい。
- ・先ほどと同じ意見が出たが、台風・地震などではこの多目的集会施設を避難所として活用できるのではないか。平成 28 年の熊本地震ではこの集会施設に 45 名避難したがスペースに余裕があった。ここをかさ上げして避難所として活用できるとよい。
- ・河川水位が 2m 程度上がっている。本流を掘削してもあまり水位が変わっていない。

集落再生へ向けた取り組み

- ・若い人が減ってきているので、できれば若い人に戻ってきてもらいたい。地域には空き家が数多くあるが、残念なことに空き家に接続する道路や駐車場が整っていない。このままでは空き家を活用できない。線路をこのまま道路として使い続けることができれば、空き家の活用が期待できると思う。
- ・坂本町が無医村になってしまう可能性がある。前々から言っているが、診療所の確保に関する対応をお願いしたい。
- ・道路が雑草で荒れており、維持管理課にお願いし雑草処理を行ってもらった。まだ、八代方面の道路左側の雑草処理が終わっていない。普通に運転できるよう対応をお願いしたい。
- ・新幹線が見える広場を活用して何か活性化の取組ができないか。
- ・公営住宅を西部地区にも建設できないか。旧八代市に近く利便が良い。
- ・小川地区はレッドゾーンが多く、家を解体してしまうと、その後新築が難しい。再建に係る制限はどうにかしてほしい。

《中谷地区 参加者：26 名》

【意見・質問等】

- ・今日は中谷地区のまちづくりについてということだが、坂本町全体がどうなっていくのかということについて心配や意見がある。今日はそうした意見を伝える時間はないのか。
- ・坂本支所周辺のかさ上げなどが発表されたが、そうした坂本町全体の説明を聞きたい。また、坂本町が無医地区になっており、病院や診療所を確保してほしいとの要望が挙がっていると思うが、それに対して今後の動きが見えない。福祉センターに公設の診療所を整備することなどをぜひ検討してほしい。

【回答】

- ・医療の問題が一番大事なことと認識している。現在、医師会などと協議を進めていると

ころである。ご理解いただきたいと思う。

【グループワーク】

令和2年豪雨災害を受けての住まい再建

- ・住宅再建の費用負担が気になる。坂本町にはほとんど高齢者しかいないような状態で、ほとんどが年金生活者である。そうした中で、住宅再建の費用を全額行政に負担していただきたい。
- ・我々の地区では、昨年度の水害で公民館や住宅が流された。公民館の再建が二の次になってしまうことはやむを得ないと思うが、やはり公民館は地域にとって非常に大事なものであり再建をしたい。
- ・公民館の再建費用については、市が9割を負担し、残り1割を地域が負担することになるが、地域には住宅が4戸、住民が7人しかいない中で、その1割を負担することさえ難しい状況である。
- ・家が残った被災者と、家が全壊した被災者では状況が大きく異なり、それを押なべて支援するのは無理がある。家を失い再建の目途が立たず悩んでいる方がまだ多くいらっしゃると思う。
- ・中津道八代線を整備してほしい。国道が不通になった場合に、対岸の道路が通れるようにしたい。災害を機に一日も早く実現してほしい。
- ・大林地区は今回の水害で大きな被害はなかった。小崎辻地区は大きな被害を受け、6軒中1軒は完全に流失し、3軒は解体が決定、2軒は半壊している状況である。そうした中で、再建のための資金の目途が立たっておらず困っている世帯がある。そうした世帯への配慮をお願いしたい。
- ・私たちの地域は、球磨川からの直接の被害はなく、床下浸水が3軒ほど発生した地域である。

緊急時における避難場所、避難経路等

坂本町はほとんどが山間部であり、国道や県道に繋がる市道が各地区に1本ずつという状態である。そうした中で、市道が止まってしまうと身動きが取れなくなる。道路整備をしないと避難もままならない。

- ・水害発生前から、県道・中津道八代線の全線開通をお願いしてきた。今回の水害で避難経路が断たれたこともあるため、この県道整備を是非実現してほしい。
- ・我々の地域は実は避難のしようがない。事前に坂本中学校に避難せよといった連絡もあるが、今回も道路が水に浸かってしまって避難できなかった。そうしたことから、まず地域の中の公民館に1次避難した上で、2次・3次避難を行えばよい。
- ・中谷地区では、青少年センターが避難所として中心的施設になると思う。山際の安全対策を行った上で、青少年センターを避難所にしてほしい。それと同時に身近な避難場所として

公民館にも必要な設備・備蓄を整備してほしい。

・斜面が多く、どこでいつ土砂災害が起きるか分からない状況である。避難所があったとしても逃げている最中に被災する可能性があり、家から出られないというのが実情である。

・大林地区では、普段、谷川に少しの水が流れているが、大雨になると水が集中し、排水溝から住宅地側に水が溢れ出ている状況がある。それにより相当な土砂が住宅地の下の方を削り将来的に地すべりが発生してしまう危険性があると危惧している。そのため、土砂災害が起こらないよう、谷川の水をうまく排水するための整備をお願いしたい。

・川を挟んで両側に家が建っているので、早めの避難が必要である。一人一人が早期避難を行うことが重要である。

集落再生へ向けた取り組み

・復興まちづくり計画に係るこうした会議は1回・2回で終わらせてほしくない。できれば、今後とも2ヶ月に1回程度、会議の場を設けていただきたい。

・元の生活に戻っている地域もあれば、住宅再建の目途が立っておらず道路整備もままならない地域もある。復旧・復興の考えに温度差がある中で、このように皆が集まってもなかなか難しい部分がある。

・鹿対策を進めてほしい。生活していく上で、害獣により野菜などを安心して作れない。害獣対策について市にも支援いただきたい。

・空き家対策をお願いしたい。若い人に坂本町や中谷地区に住んでもらいたい。

・獣害対策の支援をお願いしたい。

・空き家活用に関するアイデアを考えていただきたい。

・地区の再生には、いきいきサロンなど自分達で簡単に、身近に出来ることに取り組んでいくことが大切と考える。

《 田上地区 参加者：13名 》

【意見・質問等】

なし

【グループワーク】

令和2年豪雨災害を受けての住まい再建

なし

緊急時における避難場所、避難経路等

なし

集落再生へ向けた取り組み
なし

以上